

5 単元の指導計画と評価計画（全7時間）

次	時	目標	主な学習活動	評 価			
				国語	話す	言語	評価規準（評価方法）
1 次	1	・意見を効果的に述べるためには根拠が必要であることに気づくことができる。	（導入） ①日常生活に関するテーマに対し、自分の意見を持ち、その根拠の説得力について考える。 ②説得力のある意見の述べ方を知る。 →学びを支える言葉の力「論証の組み立てを捉える」		○		【話】結論と根拠を見分けたり、根拠の説得力の有無について自分の意見を述べたりできる。（観察・ワークシート）
	2	・質問すること、反論することで議論（話し合い）が深まることに気付くことができる。	① 学びを支える言葉の力より、「質問する」「反論する」練習をする。		○		【話】適切な質問をしたり、問題文の論証を取り上げたうえで反論したりしている。（ワークシート）
	3	・テーマについて自分の主張に合う根拠を探し、意見を持つことができる ・相手の意見を聞き、質問・反論ができる。（論者） ・双方の意見を客観的な立場で論理的に判断し、論者に根拠をもって伝える。（審判）	（グループ活動） ① グループでのディベートを通して、立論・質問・反論の仕方を練習する。（論者） ② 根拠をもとに情報を判断する練習をする。（審判）		○		【話】根拠を持って自分の立場を支持する意見を述べている。（ワークシート・観察） 【話】反対の立場に対して、建設的な反論・質問ができています。（観察） 【話】判定内容を根拠を持って説明することができています。（ワークシート・観察）
2 次	4 5	・社会生活に関するテーマについて、意見を述べるための材料を多様な方法で集め、整理することができる。 ・適切な言葉を利用してディベート台本を作ることができる。	（グループ活動・作戦会議） ①インターネット、新聞、書籍等から、効果的な根拠を収集し、整理する。 ②ディベートのための台本を作る。（根拠の提示の仕方の工夫）		○	○	【話】客観性のある情報を多く収集している。（ワークシート） 【言】公の場を意識した言葉を遣って台本を作ることができる。（台本）

6 7 本 時	・日常生活の中でも積極的に意見を述べようとする。	(全体活動) ① クラスを前半・後半に分け、二つのテーマでディベートを行う。	○	○	<p>【国】自分の意見を述べることの楽しさに気付く。(ワークシート)</p> <p>【話】用意した根拠をもとに論理的な論の展開ができる。(観察・ワークシート)</p> <p>【話】双方の意見を客観的な立場で論理的に判断し、論者に根拠をもって伝えることができる。(観察・ワークシート)</p>
------------------	--------------------------	---	---	---	---

6 本時の学習 (第2次 7時間目)

○本時のねらい

- ・自分の意見を述べることの楽しさに気付くことができる。(国語への関心・意欲・態度)
- ・用意した根拠をもとに論理的な論の展開ができる。(立論者)(話す・聞く能力)
- ・双方の意見を客観的な立場で論理的に判断し、論者に根拠をもって伝えることができる。(審判役)
(話す・聞く能力)

○本時の展開

学習活動	教師の支援	評価
○本時のねらいの確認	・目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見に対してしっかりとした根拠を準備できている。(観察・論の柱カード・) ・効果的な論の組み立てになっている。(観察・台本) ・効果的な質問・反論を用意できている。(観察)
○司会者からの注意事項	・あらかじめ伝えてあるテーマを確認する。	
○賛成側の立論・・・A(4分) 「意見の根拠として～」	・審判員は班の協力の様子も見るよう伝える。	
○反対側の立論・・・B(4分)		
○作戦タイム(3分)		
○反対側から賛成側への質問(3分) ・「～とはどういうことですか。」 ・「～について説明してください。」	・水掛け論・感情論になっていたら、指摘する。	
○賛成側答弁(2分)		
○賛成側から反対側への質問(3分)		
○反対側答弁(2分)		
○作戦タイム(2分)		
○賛成側最終弁論(2分)		<ul style="list-style-type: none"> ・判断の根拠を述べることができる。(審判の発表・判定シ
○反対側最終弁論(2分)		
○判定(3分)		
○判定の根拠を発表する。(5分)	・どの根拠、論の組み立て方が有効であったかを確認する。	

○個々の振り返り（5分）	・今後の日常生活へ向けての課題・目標を確認させる。	ート） ・目標に対して自己の振り返りの中から今後の課題が見つかっている。（自己評価シート）
--------------	---------------------------	--

○ 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
国語への関心・意欲・態度	これからの生活でも意欲的に意見を述べようとする態度が育っている。	意見を述べることの楽しさに気付くことができる。	意見を述べる場面を想定させる。
話す・聞く能力（立論者）	グループで根拠を5つ以上準備し、質問したり、反論したりしながら積極的に議論を進めている。	グループで根拠を3つ以上準備し、質問したり、反論したりしながら積極的に議論を進めている。	班のメンバーの考え方を示す。
話す・聞く能力（審判役）	双方の意見を客観的な立場で論理的に判断し、論者に根拠をもって伝えることができる。論者が納得できる判断基準を論理的に述べることができる。	判断基準を、根拠をもって述べるができる。	どの根拠は判定に響いたのか焦点化させる。

7 授業の視点

- ・ ディベートを通して、自分の考えを述べようとする態度を育てることができたか。
- ・ 単元を通して、根拠をもって自分の意見を述べる力をつけることができたか。